

Title	HRTIはいかがでしょうか？
Author(s)	高松, 潔
Journal	歯科学報, 109(5): i-
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/1625">http://hdl.handle.net/10130/1625</a>
Right	

## HRT はいかがでしょうか？

高 松 潔

最近、厚生労働省から発表された「簡易生命表」によれば、2008年の日本人女性の平均寿命は86.05歳に達し、日本人女性は24年連続で長寿世界一となっている。一方、男性は79.29歳で、一昨年よりも0.1歳延びたものの前年の3位から4位に順位を下げた。この男女の寿命の差はお産の痛みを耐えた女性への神様からのプレゼントという説もあるが、女性ホルモン、特にエストロゲンの影響が大きいとも言われている。性成熟期ではエストロゲンは主として卵巣から分泌され、一部は直接的に、多くはエストロゲン・レセプター(ER)を介してその作用を発現する。このERはほぼ全身に分布していることが知られており、エストロゲンが女性の心身を護っていると言われるゆえんである。

一方、卵巣機能は加齢により低下し、月経の永久停止、つまり閉経を迎える。閉経に伴いエストロゲンは消退し、更年期障害、脂質異常症、骨粗鬆症といった退行期疾患を招くことが知られている。特に更年期障害はホットフラッシュと呼ばれるほせやほてり・発汗・抑うつ・不眠などといった症状により日常生活に支障を来し、QOLを阻害する。オーラルメディシン領域においてもエストロゲンは重要な役割を果たしており、顎骨、口腔粘膜、唾液腺にERが存在することから、唾液分泌の低下やドライマウスなどの口腔不快感、歯周病、アタッチメントロスから歯の喪失を引き起こすなど、閉経後では報告により20~90%、平均すると全体の3分の2に口腔関連愁訴を有すると言われている。また、閉経後ではインプラントの非成功率が上昇するという報告もある。

このようなエストロゲンの消退による諸症状・疾患に対しては、低下したホルモンを補充する治療法であるホルモン補充療法(HRT)が欧米では40年以上前から、日本でも1990年代前半より頻用されてきた。HRTは理論上からも、理に適ったたいへん有効な治療法であり、更年期障害などの退行期疾患の改善のみならず、歯肉出血や歯周病の改善をもたらすとともに、残存歯数の改善により無歯症のリスクや義歯の使用率を低下させ、さらに、インプラント成功率の改善にも効果があるといわれている。

しかし、新聞に大きく報道されたことから記憶されている方も少なくないと思うが、2002年に米国における大規模臨床試験であるWomen's Health Initiative(WHI)におけるHRT試験において、乳癌リスク上昇の問題から、試験が途中中止となって以来、HRTは本当に有効なのか？また、乳癌を含めてHRTは安全なのか？という疑問と不安から、HRTの価値と安全性にはクエスチョンマークが付いた状態であった。いわゆる「HRTの冬の時代」が続いていたが、ここ2年ほど各種データのサブ解析や再検討の結果から、欧米では「Life design drug」として改めてHRTが再び見直されるようになってきた。わが国においても新規薬剤が次々と臨床に導入されてきている。加えて、私も作成に携わったが、2009年6月には日本産科婦人科学会と日本更年期医学会によりHRTガイドラインも作成され、日本においても安心して有効にHRTを施行できる体制が整った。

近年、アンチエイジングの立場から加齢に伴う諸症状に対して有効な方法としてCaloric restrictionとAnti-aging pillが注目されているが、HRTはQOLの向上とともに寿命を延ばす効果があるという報告も少なくはなく、Anti-aging pillとしての可能性を有している。また、更年期障害など中高年女性の愁訴は婦人科という既成概念があるようだが、実は更年期障害の患者さんは婦人科以外の診療科を初診受診している方がずっと多いというデータもあり、特に口腔関連の愁訴は歯科・口腔外科を受診している可能性が高い。この分野はまだまだ発展途中であり、特に日本人におけるデータは少ないため、研究対象としても魅力的である。オーラルメディシンにおける一つのツールとして先生方にもぜひHRTを知っていただき、中高年女性のQOLの維持・向上に役立てていただきたい。患者さんに「HRTはいかがでしょう？」とお話するとともに、気軽に「HRTはいかがでしょう？」と相談いただければ幸いである。

(東京歯科大学市川総合病院産婦人科 教授)